～私の「神戸松蔭女子学院大学」～

丁子かおるさん
大学 昭和48年卒業

今年71歳になりました。現在和歌山市に住んでいます。

1969年、高校卒業の年、警察官であった父の仕事の関係で、紀南の周参見（すさみ）という所にいました。大学受験の為に、生まれて初めて神戸市の垂水の駅に降りました。もう、50年以上も前のことです。

入試案内の住所を頼りに、バスに乗り、ここら辺が多分大学の近くだろうと、「火の蔵」の山道を一人歩いていました。明日の入試の下見の為です。日も暮れ始めて、心細くなりだした頃、うしろから車の紳士が声をかけて下さいました。後に、その方は「松蔭」のスクールバスの運転手さんだったことがわかったのですが。

「受験生ですね？まだ遠いですよ。学校まで乗せてあげましょう」と言ってくださり、心細さが吹き飛んで何と嬉しかったことでしょう。

校内を案内して頂き、明日の受験の教室も教えて頂きました。それから「今夜のホテルは予約していますか？もしまだなら、舞子の寮に泊まることもできますよ」と、感謝でした。その夜は寮監さん手作りのトンカツ（合格）の夕食、朝には私の大好きな卵とリンゴも頂きました。

そして合格できたのです。

八代先生のメッセージと、お父様の授業も受けさせて頂くことができました。

夏休みの前の日、舞子の寮では屋上で、荒井先生ご夫妻と寮生全員で、夏の夜の素敵なパーティーを過ごさせて頂きました。

その年のクリスマス祝会は学生ホールでチャプレンの方とご一緒に、美味しいケーキやお菓子、お茶を頂き、心あたたまる時間が過ぎてゆきました。

なんと恵まれていたことでしょう。

2年生になって、下宿で一人暮らしをすることになった時、こんな一学生の私のことを心にかけて下さって、八代先生が「丁子さん、下宿は見つかりましたか？」と尋ねて下さったのです。

「松蔭」という大学の優しさ、温かさ、「私はこの学校の中で愛され、護られている」と感じました。スタートから卒業まで、私の人生で本当に過保護にして頂いた4年間でした。

ありがとうございます。

「松蔭」を卒業し、就職し、結婚し、息子たちも独立し、両親を見送り、どれ程歳月が過ぎたでしょうか。

「ホームカミングディ」にも夫を誘って参加しました。六甲の新しい学舎の新しい学生ホールで、頂いた美味しいお弁当を、この大学の卒業生ではない夫と二人で仲良く食べていました。前に座っておられた教授が急に席を立たれ、「どうなさったのかな？」と思っていたら、なんと！　夫の為にお弁当を、「どうぞ」と下さったのです。夫は「自分は一緒に来ただけなのに」と恐縮していました。

卒業生にまで、またその伴侶にまで心を込めて接して下さる大学、「神戸松蔭女子学院大学」は、私の卒業した大学です。

感謝して、自慢したい！